

## 単元名 ひらがなの筆使い

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 平仮名の筆使いを理解し、正しく書くことができる。  
 (2) 平仮名の筆使いに気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。  
 (3) 平仮名の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとする。

## 標準的な展開例

03020202\_001

【教材名】『つり』（毛筆）／（こう筆の学習）筆順と字形（硬筆）／レッツ・トライ 俳句／レッツ・トライ お店見学のお礼じょう (P. 28～P. 35)

【準備等】水書板、電子黒板、練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 平仮名の筆使いに気を付けて、『つり』を書く。            ★平仮名の筆使いに気を付けて書こう            ○硬筆と毛筆で『つり』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○試し書きと教材文字を比較して、気付いたことを話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。            ○試し書きと比べて自己評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>3 筆順に気を付けて、硬筆で書く。            ★筆順に気を付けて、字形を整えて書こう            ○硬筆で『二』『川』『十』『小』『内』『申』を書く。</p> <p>○筆順のきまりを確認する。</p> <p>○同じきまりの文字を探して書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬筆は教科書P. 29の「ためし書き」の欄を活用させる。</li> <li>・漢字と比べて平仮名は、丸みがあり、始筆や終筆が柔らかく入っていることに気付かせる</li> <li>・『つ』の「曲がり」は、筆の軸を回さないでゆっくり運ぶように書くことを確認する。</li> <li>・『り』の1筆目は2筆目につながるように書くことを確認する。</li> <li>・『り』の「払い」は、角度に気を付けて、だんだん力を抜いて払うことを確認する。</li> <li>【評】話し合いの様子や作品を通して、平仮名の筆使いに対する「知識・技能」を評価する</li> <li>・穂先の通るところを理解できるようにするために、DVDを見せたり、二色筆を用いたり、二色のチョークで書いたりするとよい。</li> <li>・部分練習ができる紙を準備し、自分の課題解決ができるような練習用紙を選ぶことができるよう支援する。</li> <li>【評】練習や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・平仮名の筆使いに気を付けて書かせる。</li> <li>・試し書きと比べ、基準の達成を確かめさせる</li> <li>【評】作品や自己評価を通して、平仮名の筆使いと自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教科書P. 29の「まとめ書き」の欄を活用させる。</li> <li>【評】作品を通して、平仮名の筆使いに対する「知識・技能」を評価する。</li> <li>・これまでに学習した筆順のきまりを思い出して書かせる。</li> <li>・どのような筆順で書いているか、児童の様子を見る。</li> <li>・二年生までに学習した筆順のきまりについて『二』『川』『十』の文字を提示し、想起できるようにする。</li> <li>・「上から下へ」「左から右へ」「横から縦へ」を確認する。</li> <li>・他にどのようなきまりがあるかを考えられるように『小』『内』『申』の文字を提示し、試し書きをどのように書いたか確かめる。</li> <li>・「中から左右へ」「外側から内側へ」「つらぬく縦画が後」のきまりを確認する。</li> <li>・筆順が正しいと、文字の形が整えられ、画数の多い字も形よく、速く書けることを伝える</li> <li>・教科書P. 57～P. 60の「漢字表」から探してもよい。</li> <li>・グループで同じきまりの文字を探し、筆順を意識して確かめながら書くように声掛けをする。</li> <li>・どんなきまりの文字を見付けたか交流し合うとよい。</li> <li>【評】グループ活動を通して、筆順のきまりに</li> </ul>

<p>○『二』『川』『十』『小』『内』『申』をまとめ書きし 自己評価・相互評価する。</p> <p>4 文字の大きさや行の中心に気を付けて、俳句を書く。 ★文字の大きさや行の中心に気を付けて書こう ○教科書P. 32の俳句を視写する。</p> <p>○どのように書くと読みやすいか、試し書きをもとに話し 合い、文字の大きさと行の中心のそろえ方について知る</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをし、自己評価・相互評価する。</p> <p>○ほかの俳句を調べて書く。</p> <p>5 文字の大きさや行の中心に気を付けて、手紙を書く。 ★文字の大きさや行の中心に気を付けて、丁寧に書こう ○手紙を書く時の手順を確認する。</p> <p>○手紙の形式を理解する。</p> <p>○「書き方のひみつ」を確認する。</p> <p>○封筒の書き方を知る。</p> <p>○メモを基に手紙を書き、自己評価する。</p>	<p>対する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が書いている様子を友達に見てもらい、正しい筆順で書いているか、お互いに評価できるようにする。</li> <li>・正しい筆順で書くことで、字形を整えて書くことができたか確かめる。</li> </ul> <p>【評】作品を通して、筆順のきまりに対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の俳句の学習と関連付けて指導する。</li> <li>・三つの俳句の中から1つを選んで視写させる</li> <li>・平仮名は漢字よりやや小さめに書くこと、行の中心や行頭の位置をそろえることを確認する。</li> <li>・文字の中心を行の中心にそろえて書けるように、補助線入りの用紙などを用意して、練習できるようにする。</li> </ul> <p>【評】練習や作品を通して、文字の大きさや行の中心などの自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準の達成を、近くの友達と相互に評価させる。</li> </ul> <p>【評】作品や自己評価を通して、文字の大きさや行の中心に対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな俳句を事前に調べておくよう指示する</li> <li>・相手意識をもって考えさせるようにする。</li> <li>・教科書P. 33を見て手順を確認する。</li> <li>・書く時に気を付けることは何かを考え、教科書P. 34を見て、大切なことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①始めのあいさつ</li> <li>②本文(つたえたいこと)</li> <li>③結びのあいさつ</li> <li>④後付け</li> </ul> </li> <li>・平仮名は、漢字より小さめに書くこと、文字の中心を行の中心にそろえて書くこと、書き始めの位置に気を付けること、手紙の形式を理解し、文字と文字との間に気を付けることを確認する。</li> <li>・相手の名前、相手の住所、自分の名前、自分の住所の順に大きく書くことにより、読みやすく、相手を大切に思う気持ちを表す封筒になることを理解させる。</li> <li>・封筒は、鉛筆ではなくサインペンなどの筆記具で書くことも、相手を思うことにつながることに気付かせる。</li> <li>・社会や総合的な学習の時間などで見学に行った後、手紙の形式を基に書かせるとよい。</li> <li>・文字の大きさや行の中心に気を付けて書けたかに着目させる。</li> </ul> <p>【評】作品や自己評価を通して、手紙の形式や文字の大きさや行の中心に対する「知識・技能」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】